

## 丹波市未来都市創造審議会 部会結果

- 日時：平成 30 年 9 月 7 日（金）午後 3 時～
- 場所：氷上保健センター 2 階 ホール
- 出席者委員：荻野美恵子委員、白滝里香委員、本庄健吾委員、大野亮祐委員、  
酒井浩二委員、大谷吉春委員、吉住孝信委員、田中延重委員、  
坂谷高義委員、足立はるみ委員、足立由夏委員、大木玲子委員、  
十倉貫委員 計 13 人

議事：（1）ワークショップ

テーマ：『丹波市の将来の姿（市民の暮らしの姿やまちの姿）について』

## 【1 班の内容】

## テーマ①公共交通と道路網

- ・乗り換えても運賃が高くなならないように、デマンド交通と公共交通機関の連携を進める。
- ・20 年後には、自家用車も電気自動車になり、さらに自動運転に代わり、高齢者も移動しやすくなる。
- ・20 年後自動運転を増やすことで、公共バスの本数を増やす。
- ・J R 福知山線の複線化を目指す。
- ・J R 福知山線の篠山口→丹波大山→柏原の新ルートをつくる。
- ・石生駅は位置が悪く使いづらいので移転する。
- ・中心部に都市機能を集めるのであれば、周辺部から中心部への交通アクセスも強化する必要がある。
- ・マイカー依存の生活から公共交通利用が増える仕組みを検討する。
- ・学校のスクールバス、病院の送迎などの独自の交通網があれば、公共交通に頼らなくてもよい。
- ・高齢者のおでかけサポートと児童の学校への登下校を補えるような中型バスを運行させる。

## テーマ②小規模多機能自治の合意形成

- ・協議会や自治会が行政サービスを行う必要性は理解できる。
- ・小規模多機能自治が実現できるか、イメージがわからない。
- ・小規模多機能自治にするということは、昔のまちの姿に戻ることになるのではないかと。

## テーマ③統合病院を核とした地域包括ケアシステムを推進するまちづくり

（意見なし）

## テーマ④学校適正規模・適正配置

- ・親のエゴではなく子どもの立場で学校のあり方を考える必要がある。

- ・こども園で一緒だった友達と小学校で分かれて寂しい思いをする子どもが増えた。
- ・地域にこだわらず、必要があれば集約するという考え方で検討するべきである。
- ・バス通学を前提として、例えば中学校は市全体で2校にするなど市全域で考えるべきだ。
- ・学校の送り迎えに、有償ボランティアを積極的に活用する。

#### テーマ⑤行政機能の集約・再編

- ・行政機能を市の中心に集約した方が良い。
- ・買い物のついでに役所に寄れるなど、行きやすい、寄りやすい場所に集約する。
- ・高齢で申請などの手続きに行けない人が増えてくるので、御用聞き的方式を採用する。
- ・住んでいる近くのJAや銀行、スーパー、コンビニの一角に職員が常駐して対応する。
- ・コスト削減のため行政サービスの電子化を進める。
- ・各支所の老朽化に伴い維持管理費がかさむので、IT等で処理する業務を増やす。
- ・同じような内容であちこちに行かなくていいように、行政機能を集約する。
- ・行政機能を集約する場合、地域では、窓口業務を支所やコンビニで出来るようにしておく。
- ・無駄遣いにならないよう財政の視点での再編が必要である。
- ・中央新庁舎はいらない、中央庁舎では最低限のサービスのみでよい。
- ・人口減で建物の維持できなくなるので、新庁舎の建設はしない。
- ・新庁舎の新築はお金がかかる。
- ・新庁舎を民間に建ててもらい間借りするなど、建築の予算を抑える方法はある。
- ・新庁舎の位置をまず決定をしないと、話が進まない。

#### テーマ⑥観光による地域振興

- ・丹波市は観光地が点在しているので、これらを結ぶ交通が充実すれば観光客が増える。
- ・外国の方など車を使えない人は、なかなか観光に来ることができない。
- ・公共交通が充実すれば、観光客が来やすくなるのではないかな。
- ・歴史資源、自然資源等以外の人が集まるイベント的な観光資源に予算をつけ、大きなイベントを実施する。
- ・人を集める大きな観光地を作るのか、点在した観光地をつなげていくのか考える必要がある。
- ・観光地はあっても、団体対応ができる施設がない。
- ・廃校や統合により使われなくなった公共施設を有効活用して拠点を作る。
- ・「見る」から「体験する」施設、宿泊施設や飲食店などが必要である。
- ・立ち寄り観光から、もっと収益が出来る方向に持っていく。
- ・世界から人が来るように、篠山のようにメディアを有効活用していく。
- ・町ごとに個性があるので、各町の特色を活かせないかな。
- ・ミシュランの星を持ったレストランなどは、不便な場所でも遠くから人が来る。

### テーマ⑦安心安全の機能確保

- ・地域の除雪や道路沿いの除草が行き届いていない。
- ・地域の負担が増えてきている、どこまで地域が担うのかが不明瞭なので、地域が有償ボランティアで除草などをしてはどうか。
- ・周辺部の環境が悪くなり、若い人たちが出て行く。
- ・周辺部が住みにくくなってきている、中心部に居住できるようにしてほしい。

### テーマ⑧土地利用と生活関連サービスの誘導

- ・新しい家を建てる時に、中心部の土地と交換して、中心部に住めるようにしてほしい。
- ・中心部に居住して、周辺部の農地に働きに行けば農地を保全できる。
- ・旧町ごとに日常生活関連の施設を設ける。
- ・周辺部は新しい施設を作るのではなく、今ある施設を充実させる。
- ・周辺部（僻地）がさびれるのはやむを得ない。
- ・太陽光発電パネルや休耕田が目立つ。
- ・農業の大規模経営を目指している人に、休耕田を貸し出すなどもっと規制を緩和してはどうか。
- ・農業をしたい人に、農地をレンタルする仕組みを作る。
- ・倉庫（物置）としての利用が増えたが雇用につながっていないので、雇用が見込める企業を誘致する。
- ・400坪以上の雇用が生まれるような大きな物流倉庫をつくる（保管の倉庫はたくさんあるが、物流倉庫などの大きなものはない）。

### テーマ⑨「地域で根付いて生活していくため、UJIターンに来てもらうため、地域に根ざした仕事・働く場を創り出していくにはどうすべきか？」

- ・若い人が住むためには、雇用が必要。
- ・市内に仕事はある、JRで働きに行くこともできる。
- ・地域の求人とギャップがあり、都市の大学に入った若い人は戻ってこない。
- ・生活費の負担を抑えるため、通院手当、学費補助、家賃補助など補助制度を充実させる。
- ・地域の子が就職等で市外に出ていかない、または戻ってくるように、地域愛を育む教育が必要。

## 【2班の内容】

### テーマ①公共交通と道路網

- ・住み慣れた地域に住み続けるために、交通・道路は必要な機能である。
- ・高齢者のアクセス・移動手段の確保がメインテーマとなる。
- ・デマンド（予約）型乗合タクシーに対する期待は大きい。
- ・路線バス（和田～氷上地域）を復活させるという話もある。
- ・柏原地域は、現在市街地として一定の賑わい等があり未来都市構想にピンときていない。

- ・デマンド（予約）型乗合タクシーのあり方に関心がある。
- ・デマンド交通は業界の反対もあった、補助金で運営している現状である。
- ・利用者がこのまま推移した場合の想定で、必要な取組を検討しないといけない。
- ・デマンド（予約）型乗合タクシーの利便性の向上が課題である。
- ・電気自動車や自動運転システムが 20 年後には当たり前になっている。
- ・J R 福知山線（舞鶴線も含めて）の複線化は検討を進めてほしい。

#### テーマ②小規模多機能自治の合意形成

- ・自治会等の役員のなり手がいない。
- ・自治会の加入率の低下などで、自治会費が減収しているが、会費を上げるにも反対がある。
- ・自治会の経営や、活動の優先順位を考える時期に来ている。
- ・現在ボランティアで活動している人自身が支えてもらう世代になりつつある。
- ・ボランティアでは成り立たない、事業・経営の視点が必要である。
- ・地域包括ケアなど行政では支えきれない部分を「地域でする」意識が必要である。
- ・以前実施された自治会長のアンケート課題が解決されていない。
- ・小規模な単位自治会の統合・再編は、資産の処分がネックとなり進みにくい。
- ・柏原地区では、自治会の存続に対する危機感が薄い。
- ・柏原も、今から考え行動しなければならない。
- ・祭りが実施できなくなっているところもある、組を合体させるような状態である。
- ・299 の単位自治会で今後について話し合いができていない、話し合う必要がある。
- ・篠山市の方が自治会の状況は厳しいので、存続について話し合っていると聞く。
- ・これまで市の交付金が支給されても、地域の今後のあり方を考えたり、話しあってこなかった。
- ・子ども世代に対して「地元に戻ってこなくていい」と言っている親もいる。それではダメだ。

#### テーマ③統合病院を核とした地域包括ケアシステムを推進するまちづくり

- ・柏原病院小児科を守る会という市民の活動があったから地域の病院が守られた。
- ・病院に市民がどうかかわっていくかという視点が大切である。
- ・県立丹波医療センターをしっかりと残していくには、医師、病院、地域コミュニティの連携が大切である。
- ・住民の 33% が市外の医療機関に行っているの、それを 10% 程度にしたい。
- ・高度医療施設は I T 化が進むと、高齢者への対応（機器を使いこなせないなど）が大変になる。
- ・病院での待ち時間に対する苦情が多い。

#### テーマ④学校適正規模・適正配置

（意見なし）

#### テーマ⑤行政機能の集約・再編

- ・ 不要な庁舎、職員数、コスト、税金などの計算が必要である。
- ・ 将来の試算をしたうえで、新庁舎が必要か判断すべきである。
- ・ 民間施設を活用して庁舎を整備する方法も考えられるはずである。
- ・ やるべき削減がある。
- ・ 新庁舎建設の63億円の必要性はあるのか、防災に先に力を注ぐべきではないか。
- ・ 現庁舎の維持に年間1.5億円かかる。
- ・ いつまでに手を打つか判断するにも、試算が必要である。
- ・ 臨時職員のあり方（能力、必要性）をしっかりとふまえておく。
- ・ （特に災害時に）行政と住民自治の役割分担の仕方（情報の共有など）が大切である。

#### テーマ⑥観光による地域振興

- ・ 子どもや孫が帰省しても、遊ぶところ・食べるところがない。
- ・ 子どもも親も遊んで学べる場所が必要（例：西脇市みらいえ）。市民プラザも西脇市の「みらいえ」をモデルにしてはどうか。
- ・ 子ども向けの観光地や子どもが集まる場所を作るには、子どもにとって安全安心な環境であることが必要条件である。
- ・ 遊休地を活用して、観光地をつくる。
- ・ 暮らしやすいまちには行きたいところがあり、それが観光にもつながる。
- ・ アクセス道路を確保する必要がある。
- ・ 交通・アクセスが悩みである。
- ・ 都会にない自然資源をうまく活用する。
- ・ 昔は当たり前だったものを、取り戻す・作りなおしていくことが大切である。
- ・ 丹波は丹波にしかないものを打ち出していく。
- ・ 「丹波の森構想」を市民として改めてどう受け止め行動するか。
- ・ ゆめタウンで実施した市民プラザのアンケートでは、「子育て」や「交流」など「コト」への意見が多かった。

#### テーマ⑦安心安全の機能確保

- ・ 自主防災マップを自治会の中でつくる・更新する必要がある。
- ・ 行政には、住民ではできないこと（専門性があることなど）をもう少し突っ込んでしてほしい。

#### テーマ⑧土地利用と生活関連サービスの誘導

（意見なし）

#### テーマ⑨「地域で根付いて生活していくため、UJIターンに来てもらうため、地域に根ざした仕事・働く場を創り出していくにはどうすべきか？」

- ・ 農業だけでは生活できない、行政の支援もない状況である。

- ・移住しても地域の会合に寄せてもらえない、自分らでやらないといけない状況。
- ・商工会の会員でも70～80人が農業者で、移住者や若手が多い。
- ・耕作放棄地を若い世代につなぐ仕組みが必要である。
- ・移住者と地域とのつながり作りをサポートすることが大切である。
- ・市で一番早く移住が始まった青垣地域でも20年前は、住みにくかった。
- ・現在は、地域の受け入れは移住者のサポートが来ている。
- ・高校時に地元の仕事を知る・体験できる機会をつくるのが大切である。
- ・社会保険や下水道料金などの公共料金を子育て層には安くするなどしてはどうか。
- ・高齢の移住者もおられるが、誰でもいいわけではない。

## (2) 各班で話し合った内容の発表

### 【1班の発表内容】

- ・主テーマは4つ（行政機能、公共交通、観光、土地利用）。その他は自由意見交換。

#### ●行政機能

- ・基本的に行政機能は中心部に集約し、書類などは自動発行やコンビニ発行の方がよい。ただし高齢者は機器の操作が難しいので、高齢者向けのサービスや窓口は周辺部に残してもらおう。
- ・中心部に行政機能を集める場合には、いろんな工夫をすればいい。例えば、民間が建てるビルに行政が入って家賃を払っていく。そうすれば長々と借金返済していく必要がないので、財政悪化させずに中心部に集約できる。
- ・新庁舎は膨大な建設費に不安があるので、統合しなくても分庁舎でもいい。

#### ●公共交通

- ・20年先には自動運転技術が発達しているだろうから、それにより便利な交通サービスを提供して住みやすいまちにしていくことが大切。
- ・今後は電気自動車と自動運転が一般化してますます便利になるだろう。マイカーが自動運転になれば公共交通に依存しなくてもいいかもしれない。それまでの間は、現状の公共交通を維持していく必要がある。
- ・電車の増便、複線化をして丹波市に来やすくすれば、観光客も増えるだろうし、都会に働きに行くのも便利になる。
- ・中心部に機能を集めるのであれば、周辺部から中心部への交通アクセスも強化する必要がある。
- ・病院、学校などが自前で交通手段を確保すれば公共交通に頼る必要がなくなる。

#### ●観光

- ・丹波市は篠山市に負けている。丹波市は観光地が市内に分散していて拠点がない。観光地を廻る公共交通もない。
- ・自動車で来る人はいいが、自動車に乗れない人や外国人観光客は丹波市に観光目的で来ない。自動運転で観光地を周遊できるネットワークができれば、丹波の多様な魅力を求めて多くの人を訪れるようになるのではないかな。

- ・立ち寄り型観光が多いので、滞在型を増やすため、宿泊や食事などの機能を整備していく必要がある。

#### ●土地利用

- ・中心部に機能を集約していくというのは共通認識になっている。
- ・将来的に、例えば、中心部は住む所、周辺部は農業をする所と位置づけ、中心部から周辺部に通って農業するというスタイルが考えられる。そのための土地の交換やレンタルの仕組みをつくってはどうか。
- ・周辺部では遊休地もあるので、比較的広い土地を求める倉庫業などを誘致してはどうか。周辺部での働き口にもなる。

#### ●小規模多機能自治

- ・地域の自治協議会に行政サービスの一部を担って欲しいという趣旨のように思える。
- ・小規模多機能自治という仕組みは、理想型として理屈は分かるが、実現は難しい。

#### ●学校

- ・本来は地域にとらわれず市全体で適正配置を行うべきだと思うが、今は親や地域の意見が強く出ている。子どもたちの立場で配置を考えるべきである。
- ・子どもの世話をするために有償ボランティアを活用してはどうか。

#### ●安全安心

- ・周辺部は人口減少で、夏の除草、冬の除雪が追いつかないなど生活環境が脅かされている。
- ・全てを地元任せると負担も大きく何処までやるかも不明瞭なので、有償ボランティアにした方がお互いにやりやすいのではないか。そうした仕組みにしていかないと、周辺部の魅力が下がって若い人が住まなくなる。

#### ●地域での仕事

- ・若い人や移住者には通院・通学・公共料金等の生活費の負担がネックになるので補助してはどうか。
- ・大学を出て戻ってこようとしても、地域の求人とはギャップがある。大学で学んだことを活かさないならば都会で働いた方が良いという意識が生まれるし、親もUターンを勧めない。
- ・JRが複線化になって大阪まで1時間で通勤できるようになれば若い人も丹波に帰って来やすくなるのではないか。
- ・以前に比べれば便利で快適に住めるようになっている。若い人には早くから「住みやすくなったから帰っておいで」と伝える、すり込みが必要である。

#### 【2班の発表内容】

- ・主テーマは5つ（公共交通、小規模多機能自治、行政機能、観光、安全安心）。その他は自由意見交換。

#### ●公共交通

- ・住み慣れた地域に住み続けるために、公共交通は必要な機能である。
- ・高齢者の移動手段としてデマンド（予約）型乗合タクシーに対する期待は大きい。

- ・高齢者の移動手段としてどう改善していくべきか、喫緊の課題である。
  - ・20年後を見据えると、自動運転等の技術を活用した公共交通や移動手段のあり方についても議論していく必要がある。
  - ・JRの複線化は検討を進めていって欲しい。
- 小規模多機能自治
- ・自治会の現状は、高齢化や役員のなり手がなく、加入率も下がって減収になるなど、続けていくことが難しくなっている。
  - ・小さい単位自治会の統合も検討していく話もあるが、資産処分の問題があって、それなかなか進まない。
  - ・自治会で、市の交付金を使って何をすべきなのか、議論していくべき時期に来ている。
  - ・人も減る、ボランティアも減る中で、事業をして行くには、会費を中心にやってきたが、事業経営・組織を考える必要がある。そういう時期に来ている。
  - ・自分の子どもに「役を押しつけられて大変だから帰ってくるな」ではなく、「帰ってこいよ」と言えるような自治の組織にしていく必要がある。
- 行政機能
- ・新庁舎の建設については、資産をそのまま維持した場合のコストや将来の減収見込み、行政の非効率による無駄になるコストなどをトータルで考えて、意思決定していくべきである。そういった情報がない中では議論するのも難しい。
  - ・20年後というなら、ITやAIも進化するので、行政職員・臨時職員のあり方や能力、スリム化、削減も考えていくべきである。
  - ・住民自治と団体自治（行政）は関連するところもあるので、棲み分け、役割分担を考えるべきである。
- 安全安心
- ・自治会ごとの防災マップを作るべきである。
  - ・自主防災組織の維持、防災訓練を続けることが大事であり、手が届かない専門的な部分は行政に協力をお願いしたい。
- 観光
- ・丹波市には遊ぶ所、食べる所が少ない。
  - ・西脇市の「みらいえ」は日常的に多くの人で賑わっている。暮らしの中に魅力的な場所、楽しめる所があると外から訪れて来てくれる。丹波市にはキラコンテンツがあるわけではないので、暮らしの中に魅力的な場所を作ることによって観光にもつなげられないか。新たに作る市民プラザはそうした拠点にしていきたいとの声もあった。
  - ・市民が当たり前だと思っている都会に無い丹波市独自の自然や歴史等の資源をもっと活用すべきである。
- 地域包括ケア
- ・柏原病院は市民の活動で守ってきた部分もある。そういった風土を生かして、市内の医療機関を維持していく、利用していく市民の意識が大事である。
  - ・医師と病院と地域コミュニティが連携していくことが必要である。



## ●地域での仕事

- ・高校生には大学に行って就職時期になってから「地元企業のアピール」をしているが、大学に行く前、高校にいる頃から、地元の仕事を紹介したり地元の仕事に触れる機会を設けていくのが良いのでは。
- ・子育て世帯は生活費がかかるので、高い公共料金に補助を出せば、丹波に住もうと思う人も増えるのでは。
- ・今は農業を仕事にする移住者が多い。耕作放棄地を貸し出す支援とか、生業に出来るようなサポート、地元での受入のサポートなどに取り組むべきである。